

グッド・ニュース



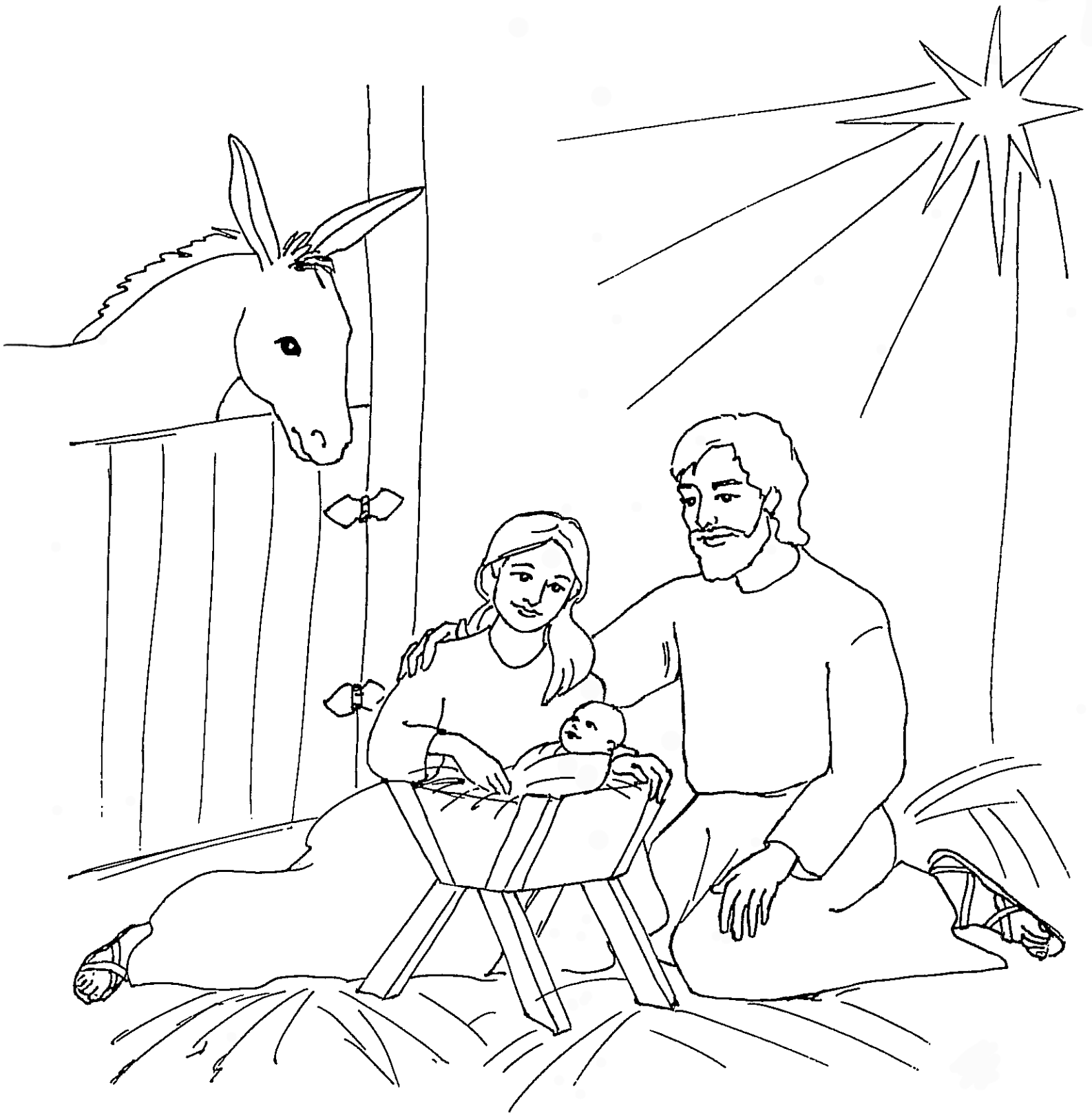


その翌月、神は御使いガブリエルを、ガリラヤのナザレ村に住む、マリヤという処女のところへお遣わしになりました。この娘は、ダビデ王の子孫にあたるヨセフという人の婚約者でした。ガブリエルはマリヤに声をかけました。「おめでとう、恵まれた女よ。主が共におられます。」

これを聞いたマリヤは、すっかり戸惑い、このあいさつはどういう意味だろうと考え込んでしまいました。すると御使いが言いました。「こわがらなくてもいいのです、マリヤ。神様があなたに、素晴らしいことをしてくださるのです。あなたはすぐにみごもり、男の子を産みます。その子を『イエス』と名づけなさい。彼は非常に偉大な人になり、神の子と呼ばれます。神である主は、その子に先祖ダビデの王座をお与えになります。彼は永遠にイスラエルを治め、その国はいつまでも続くのです。」 (ルカの福音書 1; 26-33)

「私は主の召使にすぎません。何もかも主のお言いつけどおりにいたします。どうぞ、いま言われたとおりになりますように。」マリヤがこう言うと、御使いは見えなくなりました。

(ルカの福音書 1; 38)



ヨセフは王家の血筋だったので、ガリラヤ地方のナザレから、ダビデ王の出身地ユダヤのベツレヘムまで行かなければなりません。婚約者のマリヤも連れて行きましたが、この時にはもう、マリヤのお腹は目立つほどになっていました。ベツレヘムにいる間に、マリヤは初めての子を産みました。男の子でした。彼女はその子を布でくるみ、飼葉おけに寝かせました。宿屋が満員で、泊めてもらえなかったからです。

(ルカの福音書 2:47)



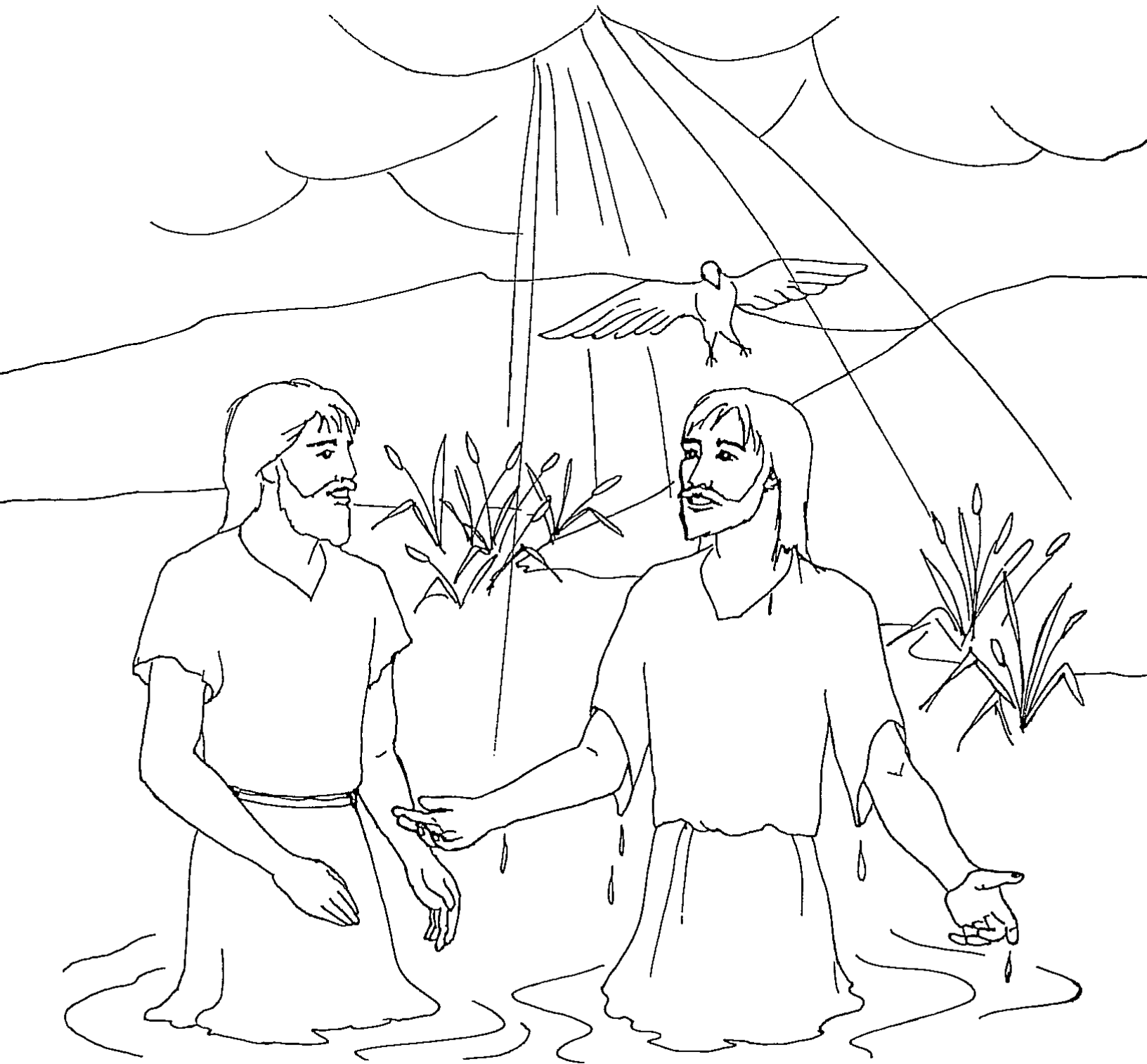
その夜、町はずれの野原では、羊飼いが数人、羊の番をしていました。そこへ突然、御使いが現われ、主の栄光がさっとあたり一面を照らしたのです。これを見た羊飼いたちは恐ろしさのあまり震え上がりました。

御使いが言いました。「こわがることはありません。これまで聞いたこともない、素晴らしい出来事を知らせてあげましょう。すべての人への、うれしい知らせです。今夜ダビデの町（ベツレヘム）で救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。布にくるまれ、飼葉おけに寝かされている赤ん坊、それが、目じるしです。」

するとたちまち、天の軍勢が現われ、御使いといっしょに神をほめたたえました。「天では、神様に栄光があるように。地上では平和が、神様に喜ばれる人々にあるように。」(ルカの福音書 2；8-14)



イエスは成長してたくましくなり、年に似合わず賢い子だ、と評判になるほどでした。
神も絶えずイエスを祝福してくださいました。 (ルカの福音書 2:40)



この使者とは、バプテスマのヨハネのことです。彼は荒野に住み、人々にこう教えました。「罪を赦していただくために、悔い改めて神に立ち返れ。そして、そのしるしにバプテスマ（洗礼）を受けるのだ。」このヨハネのことばを聞こうと、エルサレムばかりか、ユダヤ全国から大ぜいの人々が詰めかけ、次々と今までの悪い思いや行ないを神様に告白しました。ヨハネはそういう人たちに、ヨルダン川でバプテスマを授けていたのです。らくだの毛で織った着物に、皮の帯、いなごとはち蜜が常食という生活を送りながら、彼は次のように宣べ伝えました。「私よりもはるかにすばらしい方が、もうすぐおいでになる。私など、その方のしもべとなる値打もない。私は水でバプテスマを授けているが、その方は聖霊様によってバプテスマをお授けになるのだ。」

そのころ、イエスもガリラヤのナザレから来て、人々といっしょに、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになりました。ところが、イエスが水から上がったちょうどその時、天がさっと開け、聖霊が鳩のご自分の上にご下って来られるのが見えました。そして天から、「あなたはわたしの愛する子、わたしの喜びだ」というお声が聞こえました。(マルコの福音書 1:4-11)



その後イエスは丘に登り、今までに選ばれた者たちを召集されました。皆が集まったところで、十二人の者を特に選び出されました。いつもそば近くに置き、彼らに、神のすばらしい知らせを宣べ伝えさせたり、悪霊を追い出させたりするためでした。

(マルコの福音書 3:13-15)



とっぶり日も暮れたある夜のこと、パリサイ人で、ニコデモという名のユダヤ人の指導者が、イエスに会いに来ました。「先生。だれもみな、あなた様が神様から遣わされた教師であることを存じ上げております。あなた様のなされる奇蹟を見ればもう、わかりきったことでございます。」

「そうですか。でもよく言っておきますが、あなたはもう一度生まれ直さなければ、絶対に神の国へは入れません。」

ニコデモは、思わず大声で叫びました。「ええっ、もう一度生まれるのですか！ いったい、どういうことですか。年をとった人間が母親の胎内に戻って、もう一度生まれるんですか。そんなこと、できっこありませんよ。」

「よく言っておきますが、だれでも水と御霊によって生まれなければ、神の国へは入れません。人間からは人間のいのちが生まれるだけです。けれども聖霊は、天からの、全く新しいいのちを下さるのです。」

(ヨハネの福音書 3；1-6)



それからまもなく、イエスは弟子たちといっしょにナインの町へ行かれました。いつものように、あとから大ぜいの人がぞろぞろついて行きます。町の門の近くで、葬式の行列にばったり出会いました。死んだのは、夫に先立たれた女の一人息子でした。町の人が大ぜい母親に付き添っています。痛々しい母親の姿を見てかわいそうに思ったイエスは、「泣かなくてもいいのですよ」と、やさしく声をおかけになりました。そして歩み寄り、棺に手をかけると、かっいていた人たちが立ち止まったので、「少年よ、起きなさい」と言われました。

すると少年はすぐに起き上がり、回りの人たちに話しかけたではありませんか。イエスは少年を母親に返してあげたのです。

人々はびっくりし、ものも言えませんでした。次の瞬間、あちこちから神を賛美する声がわき上がりました。「大預言者様だっ!」「神様のお働きだっ!この目で見たぞっ!」(ルカの福音書 7; 11-16)



イエスが丘に登り、弟子たちといっしょに腰をおろされると、大ぜいの群衆も、追いかけるように、あとからあとから丘に登って来ます。その様子をながめながら、イエスはペリポにお尋ねになりました。「ペリポ。この人たち全部に食べさせるには、どこからパンを買ってきたらいいでしょうか。」もっとも、これは、ペリポを試ただけで、どうするかは、もうとっくに決めておられたのです。ペリポは、「こんなに大ぜいじゃ、ひと財産あっても、まだ足りないでしょうね」と答えました。シモン・ペテロの兄弟アンデレガ口をはさみました。「この子が、大麦のパンを五つと魚を二匹持ってますよ。でもなあ、こんなに大ぜいじゃ、焼け石に水かな？」イエスは、「さあ、みんなを座らせなさい」とお命じになりました。男だけでも五千人はいたでしょうか。それが全員、草の生えた斜面に、どやどや腰をおろしました。そこで、イエスはパンを取り、神に感謝の祈りをささげてから、人々にお配りになりました。また魚も同様にさきました。みんなほしいだけ食べて、お腹はいっぱいです。イエスは弟子たちに言われました。「さあ、少しもおだにしないよう、パンくずを集めなさい。」残り物を集めると、なんと十二のかごにいっぱいです。それを見た人々は、どんなにすばらしい奇蹟が起こったのか初めて気づき、口々に、「この方こそ、待ちに待ったあの預言者様だっ！絶対にまちがいな い！」と叫びました。

(ヨハネの福音書 6；5-14)



その日の夕方、弟子たちは湖の岸辺に降りて行きました。もう暗くなったのに、イエスはまだ戻られません。そこで舟に乗り込み、カペナウムに向けて湖を渡り始めました。ところが、しばらくこいで行くうちに、風が出てきました。風はびゅうびゅう吹きまくり、湖も荒れだしました。それも、だんだんひどくなる一方です。四、五キロほどもこぎ出したでしょうか。ふと見ると、イエスが舟のほうに歩いて来られます。あまりの恐ろしさに、ただもう震え上がるばかりです。イエスが、「こわがることはありません」と声をおかけになると、やっと気を取り直し、うれしそうにイエスを舟にお乗せしました。するとどうでしょう。舟はすぐに目ざす地に着いたのです。

(ヨハネの福音書 6:16-21)



さて、イエスに祝福していただこうと、人々が、子供たちを連れてやって来ました。ところが弟子たちは、じゃまだとばかり、彼らを追い返そうとしました。それをごらんになったイエスは、憤って弟子たちをおしかりになりました。「子供たちを、自由に来させなさい。神の国はこの子供たちのような者の国なのです。追い払うなど、とんでもありません。いいですか。よく言っておきますが、小さな子供のように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」それから、子供たちを抱き上げ、頭に手を置いて、祝福されました。

(マルコの福音書 10 ; 13-16)

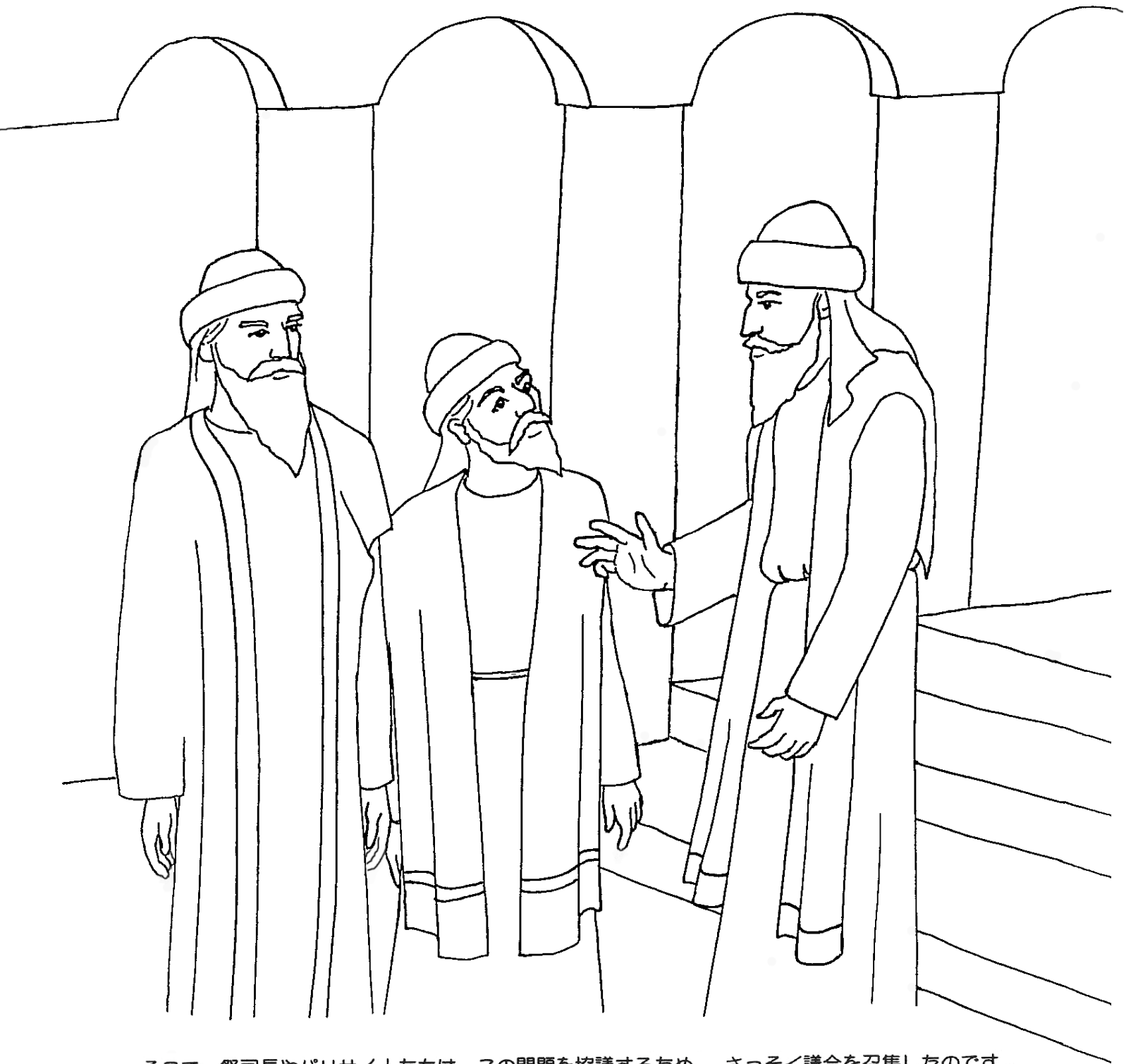


わたしはまた、良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のためにはいのちも捨てます。

(ヨハネの福音書 10 ; 11)

わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。わたしは彼らを知っているし、彼らもわたしにはついて来ます。わたしは彼らに永遠のいのちを与えるのです。だから、絶対に滅びたりはしません。だれも、わたしの手から彼らを奪い取ることはできません。

(ヨハネの福音書 10 ; 27-28)



そこで、祭司長やパリサイ人たちは、この問題を協議するため、さっそく議会を召集したのです。たいへんな議論になりました。「あいつが確かに奇蹟を行なっているというのに、いったい何をぐずぐずしているのか。あいつをこのまま放っておいてみる。国民一人残らずあいつを信じるようになってしまうぞ。そんなことにでもなったら、取り返しがつかない。ローマ軍が踏み込んで来て、われわれを殺し、ユダヤ政府を乗っ取るだろう。」

すると、その年の大祭司カヤパが、業をにやして言いました。「ばかを言うな。こんなこともわからないのか。全国民の代わりに、やつ一人に死んでもらえば事はすむのだ。国民全体が減びるなんて、冗談じゃない。」

イエスが全国民の代わりに死ぬことを、ほかでもない大祭司カヤパが預言したのです。カヤパは、自分で考えたものではありません。そう言うように、聖霊に導かれたのです。これは、イエスが、イスラエル人ばかりか、世界中に散らされているすべての神の子供たちのためにも死んでくださるという預言でした。この時から、ユダヤ人の指導者たちは、イエスを殺す、うまい計画をあれこれ練り始めました。

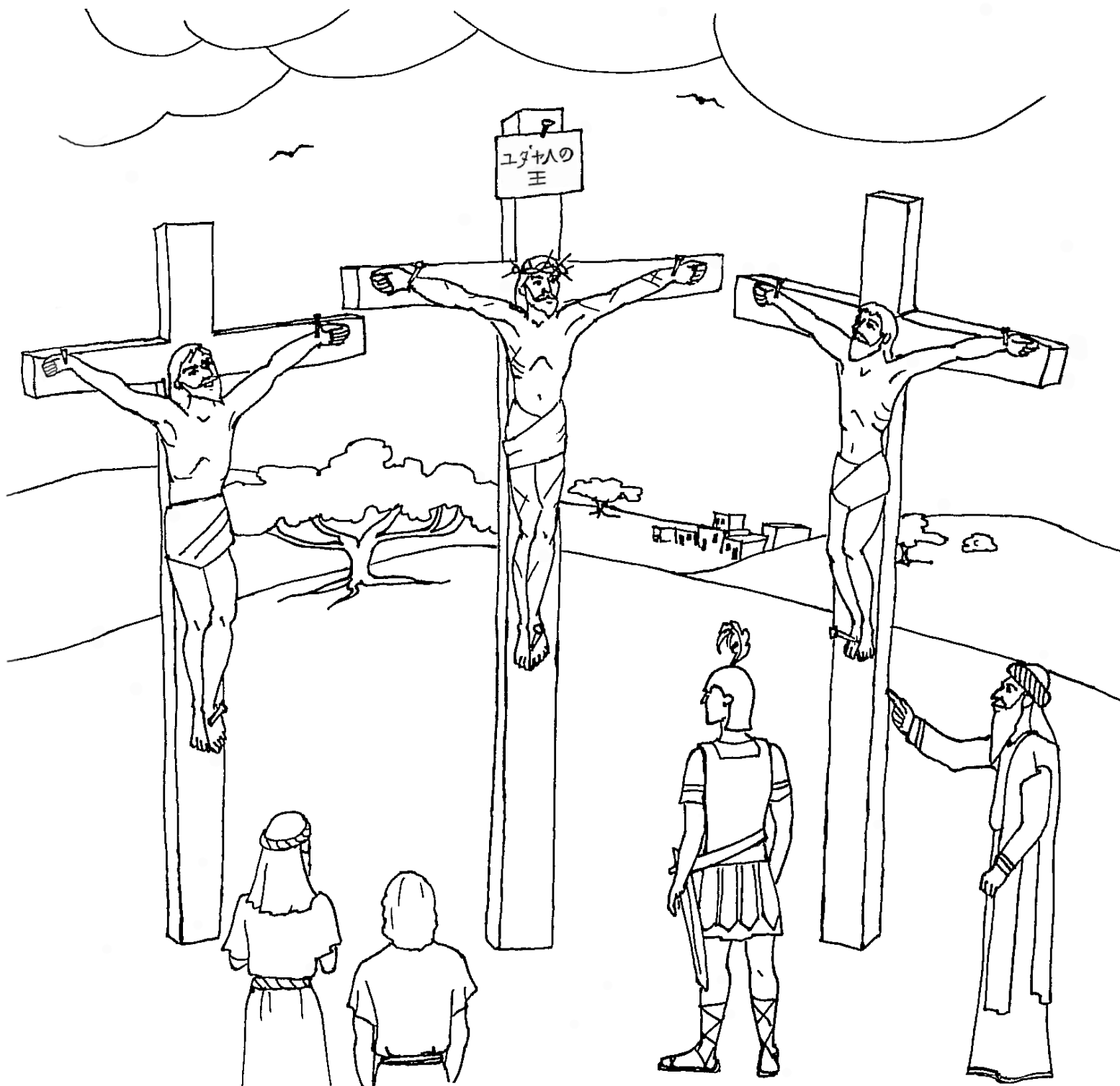
(ヨハネの福音書 11:47-53)



その夕方、十二弟子といっしょに食事をしている時、イエスは、「あなたがたのうち一人が、わたしを裏切ろうとしています」と言われました。

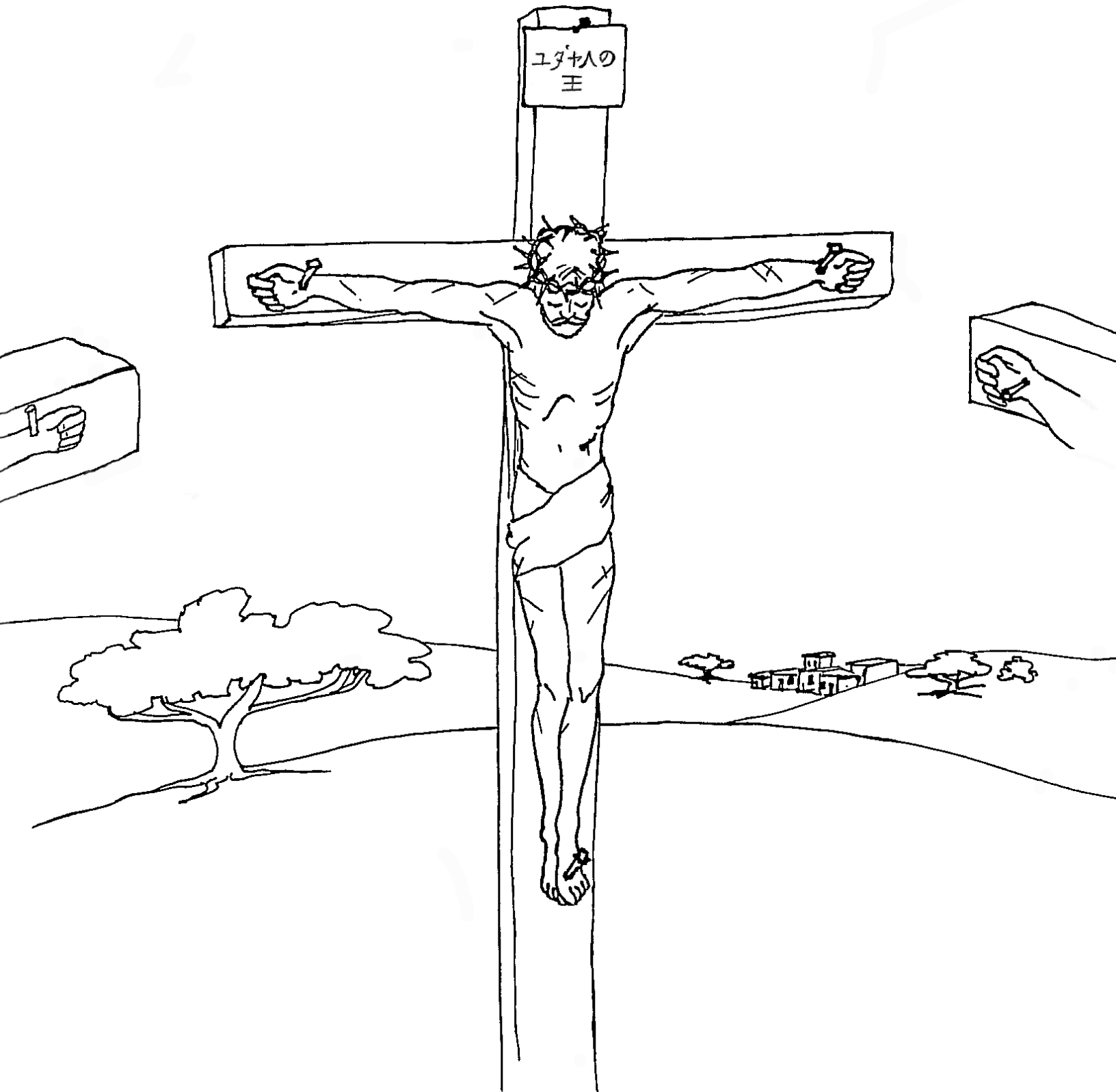
これを聞いた弟子たちはひどく心を痛め、口々に「まさか、私じゃないでしょうね」と尋ねました。「わたしといっしょに鉢に手を浸している者が、裏切るのです。」

(マタイの福音書 26 ; 20-23)



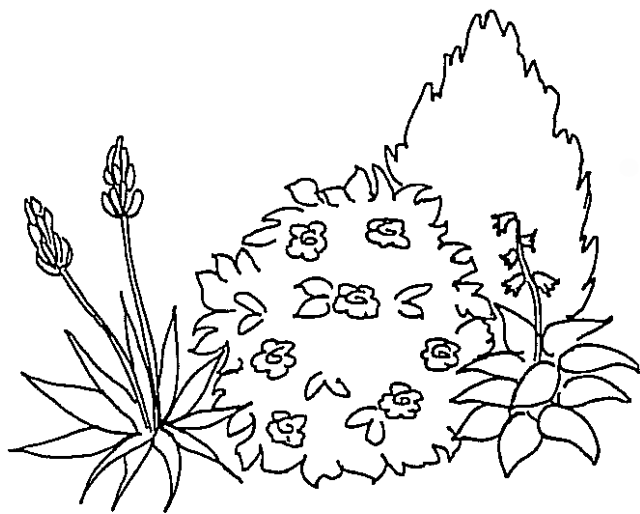
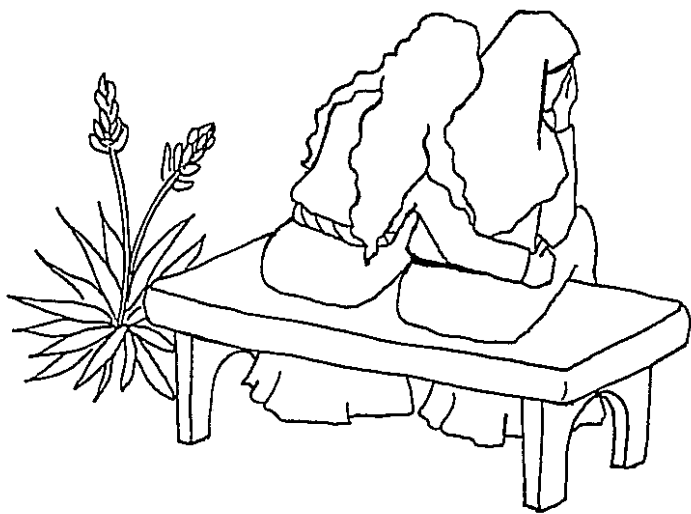
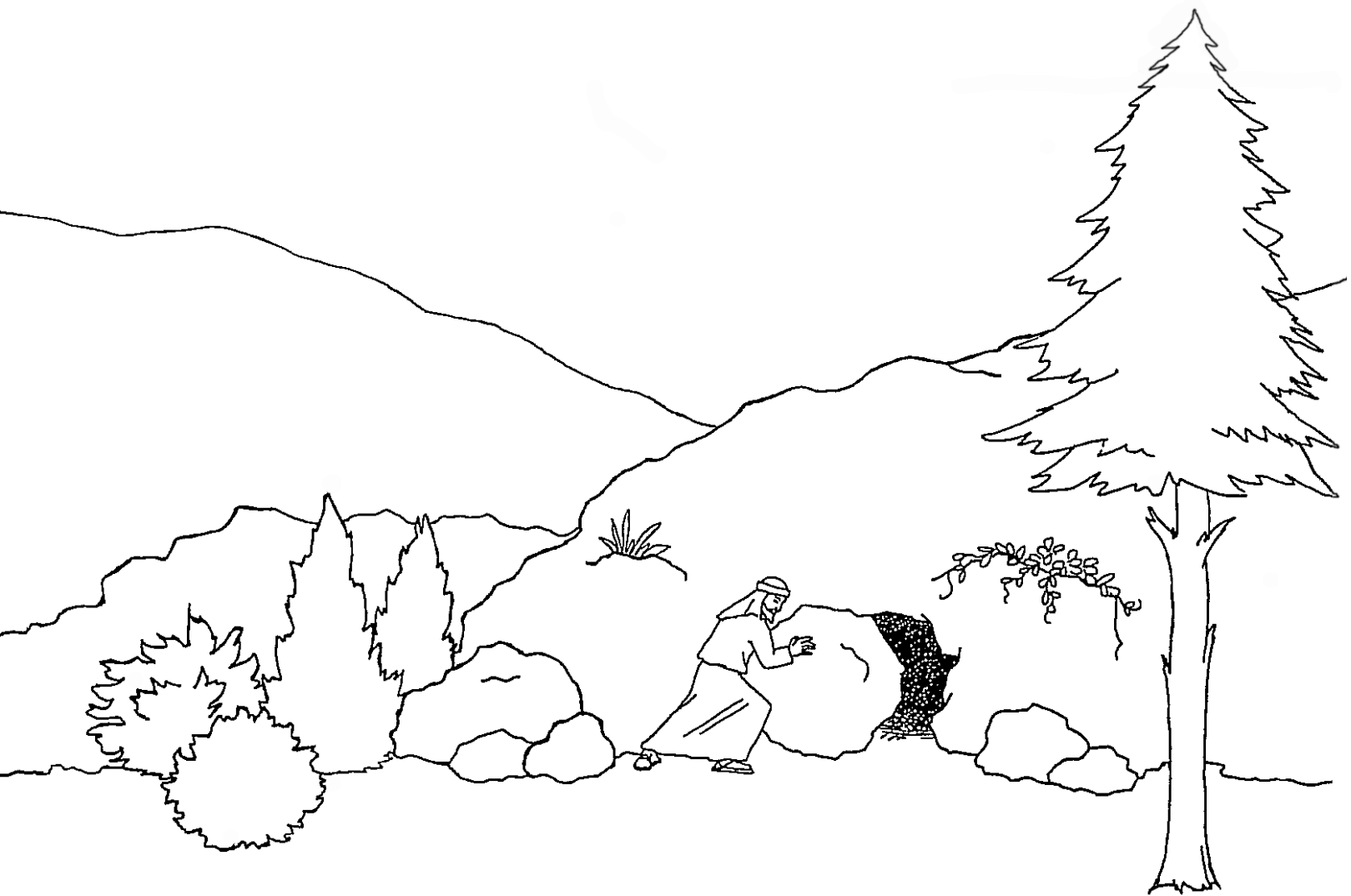
イエスだけでなく、ほかにも二人の犯罪者が、「がいこつ」と呼ばれる場所で処刑されるために、引き立てられました。刑場に着くと、いよいよ十字架刑です。イエスは真ん中に、二人はその両側に……。 (ルカの福音書 23 ; 32-33)

イエスの横で十字架につけられていた犯罪人の一人までが、「あんたメシヤ様なんだってなあ。だったらよあ、自分とおれたちを救ってもよさそうなもんだぜ。ええっ、どうなんだいっ！」とののしりました。しかしもう一人は、それをたしなめました。「この期に及んで、まだ神様を恐れないのかっ！おれたちやあ悪事を働いたんだから、殺されて当然さ。だがよ、このお方はどうだ。悪いことなんぞ、これっぽっちもしちゃおられないんだぜ。」そして、イエスにこう頼みました。「イエス様。御国に入られる時、どうぞ、私を思い出してください。」イエスはお答えになりました。「あなたは今日、わたしといっしょにパラダイスに入ります。約束します。」 (ルカの福音書 23 ; 39-43)



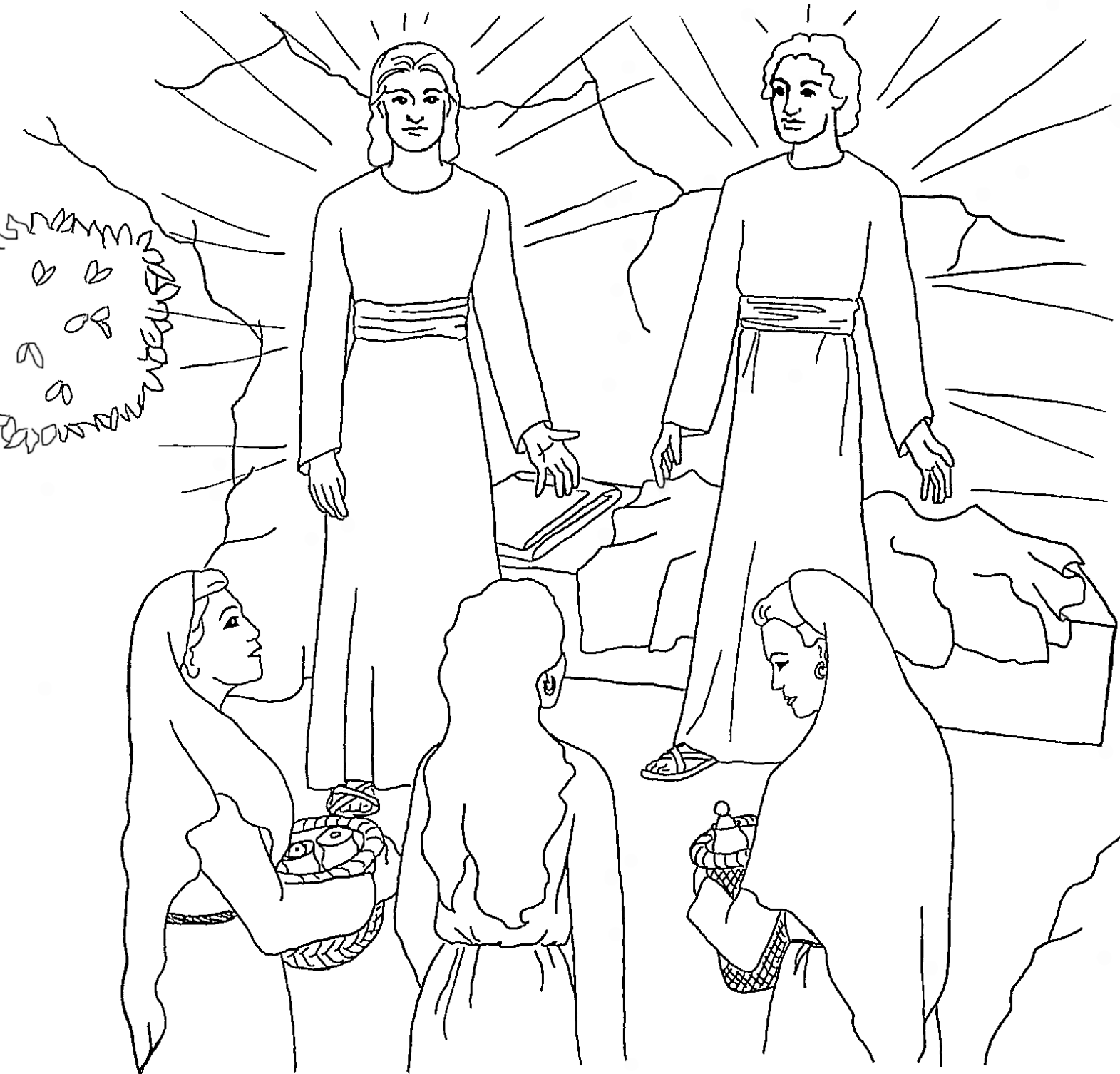
その時です。正午だというのに、突然、あたりが暗くなり、午後三時まで、そんな状態が続きました。太陽は光を失い、神殿の幕が、なんと真っ二つに裂けたのです。その時イエスは、大声で、「父よ。わたしの霊をおゆだねします！」と叫ばれたかと思うと、息を引取られました。

刑を執行していたローマ軍の隊長は、不思議な出来事を見て、神への恐れに打たれ、「確かに、この人には罪がなかった」と叫びました。 (ルカの福音書 23 ; 44-47)



夕方になりました。イエスの弟子で、アリマタヤ出身のヨセフという金持ちが来て、ピラトに、イエスの遺体を引き取りたいと願い出ました。ピラトは願いを聞き入れ、遺体を渡すように命じました。ヨセフは遺体を取り降ろすと、きれいな亜麻布でくるみ、岩をくり抜いた、自分の新しい墓に納めました。そして、大きな石を転がして入口をふさぎ、帰って行きました。この有様を、マグダラのマリヤともう一人のマリヤが、近くに座って見ていました。

(マタイの福音書 27 ; 57-61)



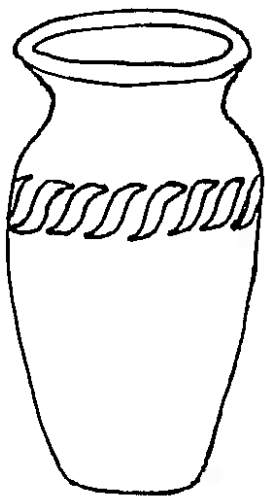
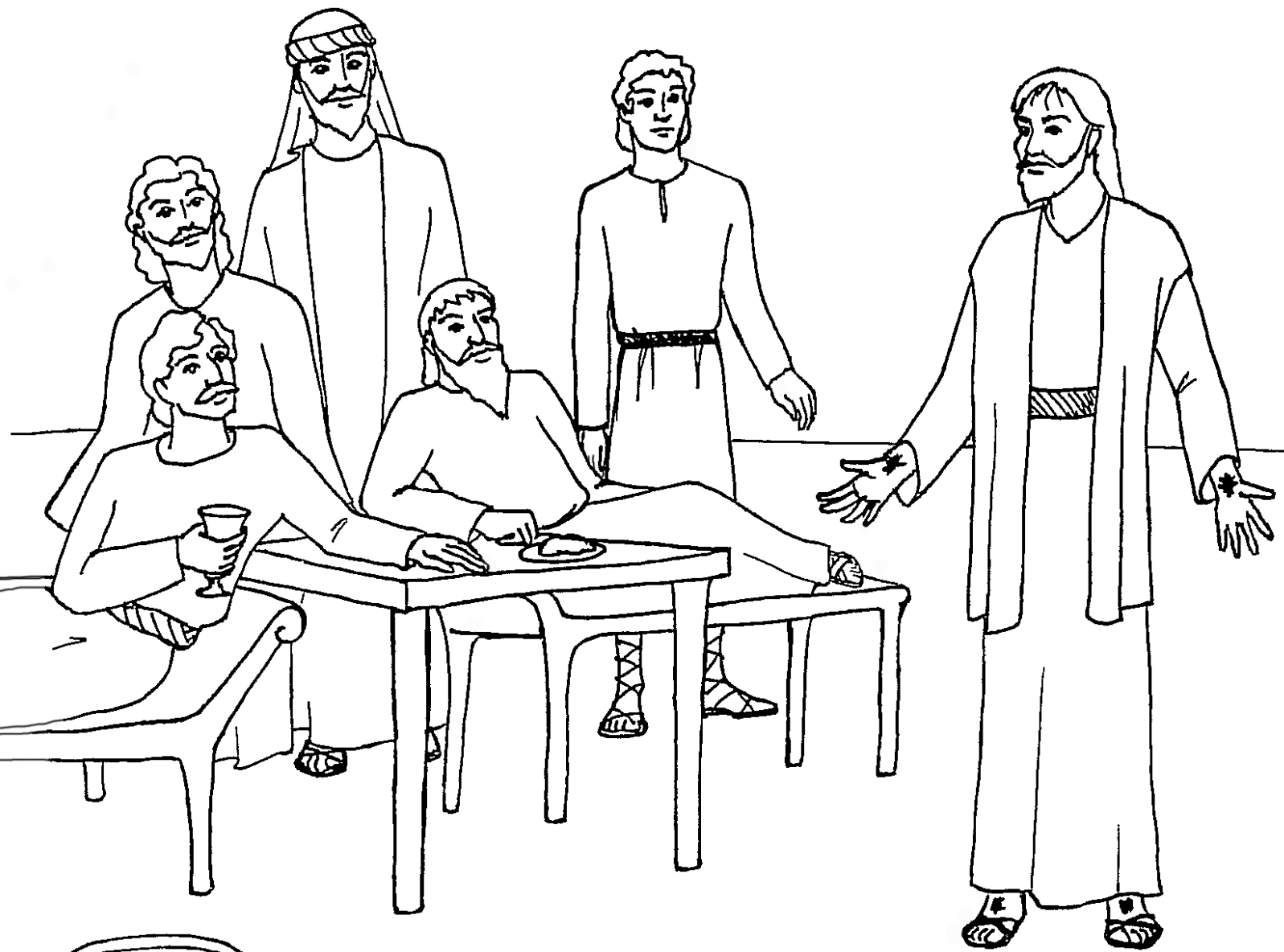
日曜日の明け方早く、待ちかねた婦人たちは香油を持って墓に急ぎました。着いてみると、どうしたことでしょう。入口をふさいであった大きな石が、わきへ転がしてあるではありませんか。中へ入って見ると、主イエスの体は影も形もありません。

「いったい、どうなってるのかしら。」きつねにでもつままれたような気持ちです。すると突然、まばゆいばかりに輝く衣をまとった人が二人、目の前に現われました。女たちは、もう恐ろしくて恐ろしくて、顔も上げられません。地に伏したまま、わなわな震えていました。その時、二人が声をかけました。「なぜ生きておられる方を、墓の中で捜しているのです。

あの方はここにはおられません。復活なさったのです。まだガリラヤにおられたころ、何と言われましたか。メシヤ（救い主）は悪い者たちの手に売り渡され、十字架につけられ、それから三日目に復活する、と宣言なさったではありませんか……。」

そう言われて女たちは、はっと思いあたりました。

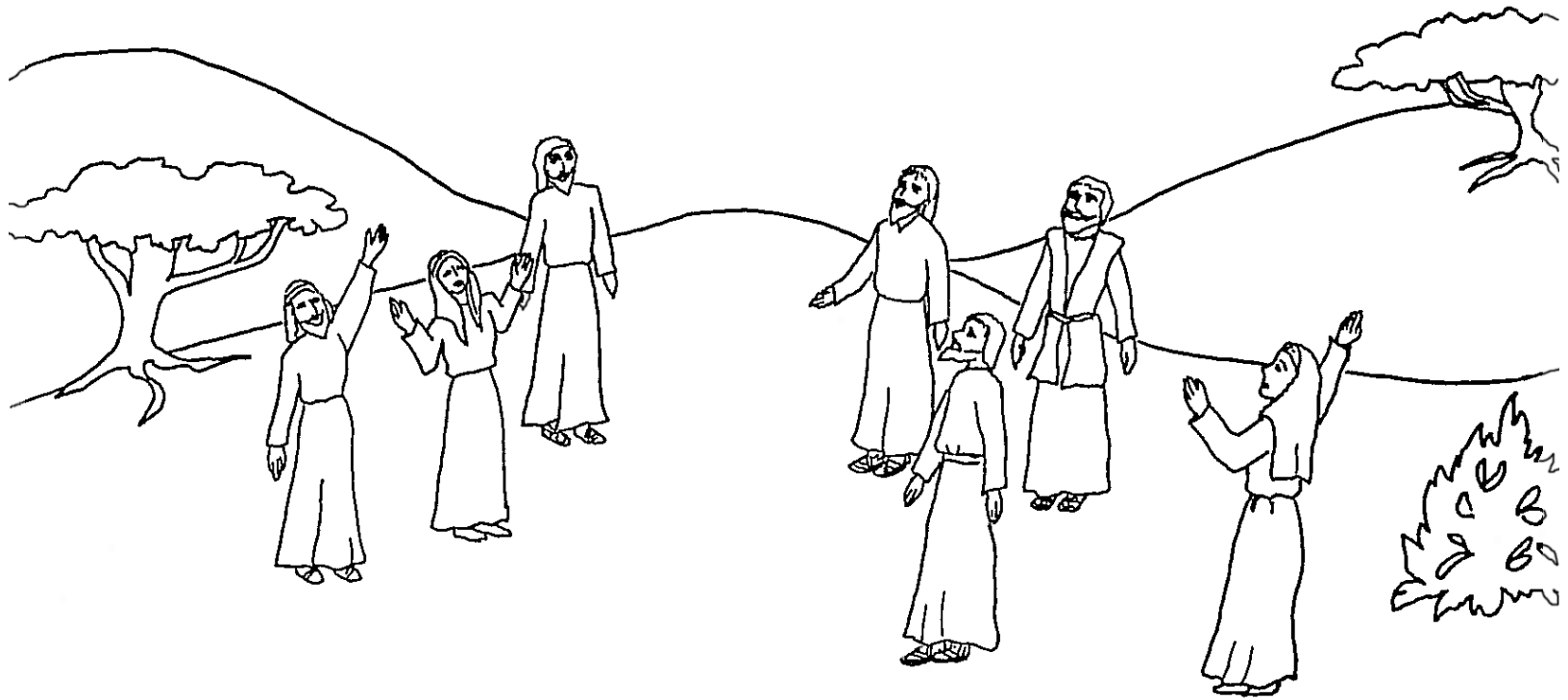
（ルカの福音書 24；1-8）



そして、すぐエルサレムへ取って返しました。戻ってみると、十一人の弟子たちやほかの弟子たちが迎え、「主は、ほんとうに復活されたんだよ。ペテロがお会いしたんだからまちがいない」と話すではありませんか。そこで二人も、エマオへ行く途中イエスと出会ったことや、パンをちぎられた時に、はっきりイエスだとわかったことなどを事細かに話しました。

ところが、この話の最中に、突然イエスが現われ、みんなの真ん中に立って、あいさつされました。それなのに、だれもかれも幽霊を見ているのだと勘違いし、ぶるぶる震えています。「ぜそんなに驚くのですか。どうしてそんなに疑うのですか。さあ、この手を、この足を、よくごらんください。わたしにまちがいないでしょう。さあ、さわってみなさい。これでも幽霊でしょうか。幽霊だったら、体などないはずですよ。」

イエスはこう言いながら、手を差し出して釘の跡をお見せになり、また足の傷もお示しになりました。
(ルカの福音書 24:33-40)



イエスが弟子たちの心の目を開かれたので、彼らにも、やっと納得がいきました。イエスは、さらに先をお続けになりました。「そうです。メシヤが苦しめられ、殺され、そして三日目に復活することは、ずっと昔から記されていたのです。わたしのもとに立ち返る人は、だれでも罪が赦されます。この救いの知らせは、エルサレムから始まり、世界中に伝えられるのです。あなたがたはこのことの証人です。初めから何もかも見てきたのですから。」(ルカの福音書 24 ; 46-48)
それからイエスは、一同をベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福してから、天に帰って行かれました。 (ルカの福音書 24 ; 50-51)

実に神は、ひとり息子をさえ惜しまず与えるほどに、世を愛して下さいました。それは、神の御子を信じる者が、だれ一人滅びず、永遠のいのちを得るためです。神が自分の息子を世にお遣わしになったのは、世に有罪判決を下すためではありません。救うためです。この神の子に救っていただけると信じ、何もかもお任せする者は、永遠の滅びを免れます。しかしお任せしない者は、神のひとり息子を信じなかったのですから、すでにさばかれ、有罪判決を下されたのです。
(ヨハネの福音書 3; 16-18)

もし、自分には罪がないと言いはるなら、それは、自分をだましているのであって、真理を受け入れようとしない証拠です。しかし、もし自らの罪を神様に告白するなら、神様はまちがいなくそれを赦し、すべての悪からきよめてくださいます。
(ヨハネの手紙Ⅰ 1; 8-9)

イエスはトマスによく言って聞かせました。「いいですか。わたしが道です。そして真理でもあり、いのちでもあります。わたしを通らなければ、だれ一人、父のところへは行けません。
(ヨハネの福音書 14; 6)

重い荷物を背負い、苦しみながら働いている人たちよ。さあ、わたしのところに来なさい！あなたがたを休ませてあげよう。わたしはやさしく、謙そんだから、あなたがたにふさわしい荷物をあげよう。それを背負って、わたしの教えを聞きなさい。そうすれば、あなたがたのたましいは安らかになります。わたしの荷物は軽く、背負いやすいからです。
(マタイの福音書 11; 28-30)

この本に記した奇蹟のほかにも、もっと多くの奇蹟をイエスが行われるのを、弟子たちは見ました。しかし、これらのことを特に書いたのは、皆さんが、イエスは神の子キリストであると信じるため、待たそう信じていのちを得るためです。
(ヨハネの福音書 20; 30-31)

わたしは初めであり、終わりです。最初であり、最後です。(ヨハネの黙示録 22;13)

AΩ



あなたは、このお祈りのように願っていますか？もしそうなら、この通りにお祈りして下さい。
イエスさまは、ご自分で約束して下さったとおり、あなたの人生に入ってきて下さいます。

“主イエスさま。

私は、罪人であり、私の人生にあなたが必要であるとわかりました。

イエスさまが、私の罪を取り去るために、十字架で死んで下さり、感謝します。

私の罪をゆるして下さい、永遠のいのちを与えて下さり、感謝します。

私は、救い主として、また主として、あなたを私の人生にお招きします。

どうぞ私の人生を導いて下さい。”

なまえ _____

日付 _____

Illustrated by: Linda Riddell

www.goodnewscoloringbook.org

Japanese (Living)

